

# 気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol: 156

令和6年3月1日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!

枝もの用クロマツ出荷調製作業の様子



出荷前の枝もの用クロマツ

地区代表者との打ち合わせ



四季成りいちご先進地視察

# 今年度の普及活動紹介

## 1 担い手を核とした地域農業の継続・発展

【対象】表山田・三段田地区の中心経営体2経営体及び主要農家8人



打ち合わせの様子

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、農業従事者の高齢化が進んでおり、後継者が少なく、地域農業の維持が難しくなっています。地区内では、法人1社と個人1人が認定農業者として農業を行っており、地域農業の継続・発展のため、この1社、1人を中心的経営体とした人・農地プランを令和3年2月に作成し、農地集積を進めることとなりました。

### ①地域農業の将来の在り方の合意形成

ほ場整備推進委員会の三役や役員（主要農家）との打ち合わせを複数回行いました。委員会と合同で、地区内の地権者へ説明会を実施し、その中で普及センターとして行う支援内容の説明をしました。また、地区内の地権者や関係者など60人に対し、活動状況やお知らせなどを記載した情報誌「かわら版」を定期的に発行し、きめ細やかな情報共有を図っています。



ドローン防除の様子

### ②高収益作物の検討支援

高収益作物の作付け品目について検討を行い、えだまめとさつまいもについて、将来的に地域での高収益作物の候補作物として実際に栽培、収穫、販売する支援を行いました。また、栽培の結果等の振り返りを行った結果、えだまめを候補品目とすることにし、来年度に向け、は種時期や収穫時期の検討、品種選定をすすめています。

### ③水稲省力化技術向上支援

水稲の省力化や作業分散を目指して、管内初となる水稲乾田直はを50aで実施し、技術習得を支援しました。は種作業や農業用ドローン活用研修会を実施し、目的とした乾田直は栽培の安定化や作業時間の短縮が図られました。今年度の結果を踏まえ、来年度は、乾田直は栽培の作付け面積を拡大することになりました。

## 2 市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展

【対象】株式会社南三陸Pine Pro

### ①クロマツ省力栽培と出荷調製作業の軽労化の検討

省力生産技術確立のため、電動は種機を使ったは種作業の検討、苗を定植した1年目のほ場で除草剤による雑草対策について検討を行いました。また、出荷調製作業の軽労化のため、昨年度までの調製作業を見直し、今年度は収穫したクロマツを全て出荷調製施設に運び込むとともに、調製作業に使用する機械類の配置、作業動線の改善を支援しました。

このため、昨年度はほ場で選別していましたが、今年度は収穫物全てを施設内で選別することで、大幅に廃棄ロスが減りクロマツの出荷本数は10a当たり換算で前年比30%アップとなりました。また、作業効率が良くなったことで、人件費が前年比で40%ダウンしました。



除草剤試験（薬剤散布）の様子



出荷調製作業の様子

### ②小ギクの地域適応性と商品性の把握

令和3～4年にかけて露地電照栽培試験を行い、有望品種として小ギクの「精きくゆう」を9月出荷用に取り組み、大阪なにわ花いちばに出荷しました。平均単価60円と小ギクとしては高値で、需要期に出荷できる品種選定と開花調整技術を習得できました。

### ③経営統合に向けた調整と従業員雇用の支援

クロマツ経営と個人経営のきく部門を統合し、従業員を周年雇用する計画でしたが、中小企業診断士による現地相談会で、クロマツときくの統合は、クロマツの経営が軌道に乗ることが最優先で、クロマツで従業員を雇用できるように経営発展を目指すことが重要とアドバイスがありました。

今年度はクロマツの定植面積を拡大するためにも、良質な苗の確保が必要と提案されました。



現地相談会の様子

## 今年度の普及活動紹介

### 3 四季成りいちごの生産体制確立による収量確保

【対象】 有限会社水山養殖場

#### ①栽培技術習得支援

適切な管理を行うために葉色値を測定し、その値に応じた肥培管理の助言を行いました。また、いちごの花房模式図を用いて摘花方法の情報を提供しました。

夏期高温下に多発し、食害により収量、品質低下の原因となるアザミウマ類の防除については、発生調査を行い、寄生成虫数を把握することで、要防除水準に基づく防除が身に付き、アザミウマ類の発生を抑えることができました。また、普及センターで作成した農薬リストを活用することで、IRACコードの異なる農薬散布が実施され、薬剤抵抗性の発生を抑えた防除が行われました。



アザミウマ類の発生調査

#### ②経営安定化支援

月に一度、定例会を開催し、作業の進捗状況・出荷実績の確認、栽培管理、営農に関する制度、補助事業等の情報提供を行いました。また、先進地視察により、高温対策、調製作業の省力化、従業員の配置について視察先と意見交換を行いました。その結果、従業員の増員により収穫・管理作業が改善されるとともに、次期作の省力化対策として選果機、高温対策としてミスト発生装置の導入検討を行っているところです。

以上の活動により、令和5年度の四季成りいちご目標収量を達成することができました。



先進地視察（巨理町）

### 管内農業法人紹介



畠山英之代表(右)と  
役員をやち代氏

合名会社 外浦農場（そとうらのうじょう）（代表社員：畠山英之氏）

生産規模：水稲（5ha：自作1.3ha、受託3.7ha）、水稲育苗施設（2,300㎡）

経営の特徴：水稲栽培のほか、水稲苗の販売も行い、地域の稲作を支えています。もちやパン菓子など米の加工品を製造・販売したり、夏期は育苗ハウスでなすなどの野菜類を生産・販売して施設を効率的に活用したりすることで、収益につなげています。また、普及センターの水稲優良品種決定現地調査に農家として御協力いただいています。

役員2名の他に、春・秋の農繁期にはアルバイトも雇用していますが、安全のために無理のない作業計画を立てたり、作業時間も希望に合わせて融通したりするなど、働きやすい環境づくりにも配慮しています。

#### 畠山代表 から一言

地域の高齢化に伴い、耕作を頼まれる農地も増えていますが、農地を維持できるように引き受け、来年度も水稲を1ha拡大予定です。一人では限界がありますが、他の農業者とも協力しながら、地域を盛り上げていきたいです。

## トピックス

### 「南三陸大粒(おおつぶ)ぶどう協議会」設立

南三陸町では、小規模ビニールハウス等で高単価での取引が期待できる大粒ぶどうの生産が増加しており、今後もさらなる増加が見込まれています。そこで、ぶどうの高品質化、ブランド化により、南三陸町産ぶどうの評価向上や有利販売を図るため、生産者と南三陸町、普及センター等の関係機関が連携し、協議会の設立に向けて準備を行ってきました。

このたび、令和5年11月30日に設立総会が開催され、生産者9名で構成する「南三陸大粒(おおつぶ)ぶどう協議会」が設立されました。設立総会では、会長の阿部博之氏より、「協議会を組織することで仲間作りをし、地域でまとまって頑張ることが大事。ぶどう生産を産業として町に定着させたい」との挨拶があり、参加した生産者からも今後の協議会の取組に対する前向きな声が多く聞かれました。今後は、南三陸町の特徴（海の街、環境保全・循環型の取組等）を活かした栽培要領の作成等、ぶどうの高品質化、ブランド化に向けた取組が行われる予定です。



設立総会の様子

## 株式会社階上生産組合（気仙沼市）の代表取締役社長 佐藤美千夫氏が竹駒産業文化賞を受賞されました

竹駒神社（岩沼市）が、郷土の農林水産業等産業振興に功績のあった個人や団体に授与する第68回「竹駒産業文化賞」に、株式会社階上生産組合（気仙沼市）の代表取締役社長である佐藤美千夫氏が農業（個人）の部で選ばれ、令和5年11月23日、授賞式が挙行されました。

佐藤氏は、東日本大震災で壊滅的な被害を受けましたが、様々な苦難に向き合いながら営農を継続し、地域農業を牽引してきました。また、農業を始め多方面で役職を歴任し、地域の発展に寄与されました。



佐藤美千夫氏

## 三浦悦子氏（気仙沼市）が宮城県農業・農村女性活躍表彰の 女性地域社会参画部門（個人）で最優秀賞を受賞されました

令和6年1月11日に開催された「2024農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」において、宮城県農業・農村女性活躍表彰の授賞式が行われ、気仙沼市の三浦悦子氏が女性地域社会参画部門（個人）で最優秀賞を受賞されました。この賞は、宮城県が農業・農村において社会参画や起業等で活躍する女性の個人やグループ等を表彰し、広く功績を称えるものです。

三浦氏は、経営する養鶏を通して地域の活性化に貢献されたほか、本吉町（現気仙沼市）において女性初の議会議員や農業委員となり、女性参画が少ない分野において、道を切り開いてきた功績が認められました。さらには、これまでの活動において特に夫の理解と協力が大きく、誰もが認めるパートナーシップを築いていることも評価されました。



三浦悦子氏

## 佐藤友耶氏（気仙沼市）が令和5年度宮城県農村教育青年会議の プロジェクト発表で最優秀賞を受賞されました

令和6年2月3日に、令和5年度宮城県農村教育青年会議が開催され、気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会の佐藤友耶氏がプロジェクト発表において最優秀賞を受賞されました。

本会議は、農業の中核的担い手を目指し、日頃経営の改善に努めている青年農業者が、プロジェクト活動や営農事例等を通じて得た成果を互いに情報交換し、農業と農村の発展に資することを目的としたものです。

佐藤氏は、気仙沼市波路上地区でいちごの栽培（20a）に取り組んでおり、プロジェクト発表では、「宮城県オリジナル品種『もういっこ』の導入による効果の検証」と題し、自らの経営課題の解決に取り組んだ成果を発表しました。

なお、今回の受賞により東北大会への出場が決定しています。



佐藤友耶氏

## 「酒米サポーターズクラブ」（気仙沼市）が「食材王国みやぎ」 推進優良活動表彰地産地消部門で特別賞を受賞されました

令和6年1月25日に、令和5年度「食材王国みやぎ」推進優良活動表彰式が行われ、気仙沼市の「酒米サポーターズクラブ」（共同代表：株式会社山本店菅原昭彦代表取締役、株式会社角星斉藤嘉一郎代表取締役社長）が地産地消部門の特別賞を受賞されました。

「酒米サポーターズクラブ」は、平成5年に「気仙沼を代表する日本酒を作りたい」という関係者の願いから、県内初の酒造会社2社による合同の銘柄として醸造・販売されてきた「福宿（ふくやどり）」を、原料も地元産にこだわった「地米酒（じまいしゅ）」ブランドとして確立するため、平成15年に結成されました。

生産組織「清流『蔵の華』廿一会」（会長：熊谷公兵氏）が市内の廿一地区で栽培した酒造好適米「蔵の華」を原料に地元の蔵元が醸造し、販売組織「福宿販売店会」（会長：小野寺優氏）に加盟した販売店により市内限定で販売されています。

販売組織、生産組織、蔵元、行政機関が一体となり、酒米の栽培、醸造、販売や交流イベントを一貫して地域で行うことで、地産地消を推進し、気仙沼という地域を持続的に発展させる取組が評価されました。



酒米サポーターズクラブ  
（左から、生産組織会長 熊谷氏、  
共同代表 斉藤氏、菅原氏、  
販売組織会長 小野寺氏）